

「学校の試験や入学を拒否することは差別に当たる」と明記されているのに

看護師 森下珠美

瀬戸山陽子先生、先日は貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございます。
す。

映像の中で脳性麻痺の女性の「挑戦したい」という語りを聞き、深く感銘しました。普段から、私は世の中の不平等について考えています。ジェンダー問題、障害者差別、LGBT など、このような人たちはいつも不平等と戦ってきました。そして数々の壁を感じてきました。その中で挑戦することを諦めた人、諦めさせられた人の数は数え切れないものなのではないでしょうか。

DIPEX の障害学生の語り公開記念シンポジウムの中の座談会でも大学で学びたい障害学生が入学を拒否されたというお話がありました。そして大学との交渉も受験生本人が行なっていました。本来ならば受験勉強に専念するはずの高校生が、まずは受験可能なのかという最初の壁にぶち当たっています。

障害者差別解消法の中に「学校の試験や入学を拒否する」ことは差別に当たると明記されています。しかし、現状は上記のような問題がまだ残っているようです。

誰にでも自分の可能性を信じ、挑戦する権利がある。そして挑戦したいけれど、社会の壁によって、それをためらう人がいたら、それはとてももったいないことだなあと思います。自分のために、社会のために学びを深めようとしている学生は、障害があるなしにかかわらず、社会の宝です。私たち社会がその権利を保障しなくてはなりません。

私に何ができるのか、まだ未知ではありますが、これからも社会の中に潜む、不平等に注目していきたいと思います。